

平成26年度 鴨川市教育行政評価報告書（案）

2. 生涯学習の充実

基本方針	家庭や地域での子どもの体験教室やキャリア学習、生活を豊かにする社会教育活動を通じて、市民が趣味やスポーツなどに親しみ、様々な問題解決や自己の希望の実現に向け、いきいきと学ぶことのできる「市民一人ひとりが輝く生涯学習のまちづくり」を進めます。 また、生涯学習を学ぶ住民に、一方的・固定的に学習活動を進めるのではなく、市民同士がお互い尊重し合い、教え合い、学び合う生涯学習活動の充実を図ります。 さらに、市内に関係施設がある大学との連携により、大学の持つ知的財産を市民に還元し、学習機会の拡充を図るとともに、若者の地域離れが進むなか、市民が各地域の自然や歴史、文化などを活かし、地域学習などを通じて、お互いに交流し、活動する魅力あるコミュニティづくりを推進します。
------	---

○多彩な学習活動の促進

事業等名	公民館事業の充実
概要	魅力ある公民館教室の開催や、サークル・クラブ活動の育成を行い、高齢化の進行等に伴う新たなニーズにも対応した公民館事業の充実を図ります。 また、公民館の管理のあり方等を検討し、利便性の向上に努めます。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 魅力ある公民館教室とするために、歴史の講座・趣味的な講座・ハイキング・高齢者学級・家庭教育学級など多分野にわたって実施しています。また、参加者が地域の限定なく、どの公民館の講座にも申し込みができるように配慮しています。 主催事業 72講座（全公民館合計） 定期登録団体 199団体（全公民館合計） 【成果と課題】 ◎参加者が希望する講座に参加できるように、その都度受講者を募ることで、新規の参加者も増えてきています。 ◎定期登録団体には、社会教育団体であることを意識づけるための団体長会議を行うことで、活動におけるモラルの向上と活動についての共通理解を図っています。 ◎年度当初に公民館の運営基本方針と重点目標を生涯学習課が定め、それに基づいて主催事業を企画するなど、新たな事業の掘り起こしもされてきたところです。 ◎サークル利用者の減少・高齢化が進み、活動を維持できなくなりつつあるので、新規加入者の促進、利用者の若返りを図るため、初歩の講座を開催し、既存のサークルに参加しやすい裾野を広げる取り組みを行いました。 ◎昨年度までの公民館だよりに代えて、市内全公民館の定期利用団体一覧表を製作し、ホームページ等で公開することにより周知を図り、新規利用者拡大に努めました。 ◆自分達で運営し、自分達で学習する必要性を認識し、継続したサークル活動が定着してきてはいるものの、まだ講師頼みの団体も多少見られるため、継続して支援する必要があります。

事業等名	地域学習・ボランティア活動の支援
概要	文化施設ボランティアの活用及び育成と生涯学習ボランティア（体験活動支援）の募集を図るとともに、人材バンクとして整備し、地域学習等を支援します。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 市民に広く親しまれる施設づくりを目指し、平成21年度から文化施設ボランティアを郷土資料館及び市立図書館に導入しています。各施設の主催事業はもとより、館内整理や展示案内等のボランティア活動をしています。また、各施設での研修や講習会参加などによりボランティアのスキルアップを図っています。 また、23年度から生涯学習人材バンクの整備に取り組み、24年度からボランティア登録を募りました。市民団体の学習活動支援を推進し、市民が『いつでも、どこでも、だれでも』学べる学習環境づくりと、市民同士が共に学びあう『人と人とのつながり』を培うことに努めています。 【成果と課題】 ◎平成26年度の文化施設ボランティアは45名の登録があり、その数は若干の増加はあるものの、更新登録者も多くなり登録者数は安定しています。このことから、各施設ともに活動内容が広がり、自主事業の多様化や、来館者数の増加など、施設の活性化につながっています。 ◎生涯学習人材バンク登録のボランティアは21名の登録があり、市内の小・中学校のクラブ活動や土曜スクール、通学合宿などで、学習指導や支援を行う活動が広まりつつあり、そのリクエスト数も増えてきています。また、今年度はボランティア交流会を通して、亀田医療大学とのつながりも生まれ、大学生への学習支援も実現し、活用の領域が広がってきています。 ◆文化施設ボランティアについては、各施設のボランティア活用計画に基づき活動しています。登録期間が1年登録（更新）であることから、登録しやすい反面、登録人数の大幅な増加につながらない面があります。そこで、ボランティア登録者が充実感を味わえ、積極的に活動へ参加できるような取り組みを図っていく必要があります。 ◆生涯学習人材バンク事業は、3年を経過し登録ボランティア数も少しずつ増えてはいるものの、より広範囲かつ定期的な募集の呼びかけと、登録ボランティアの具体的な指導内容資料の作成など、当該人材バンクの募集と活用に係る周知を図る必要があります。

事業等名	児童・生徒の体験活動事業の推進
概要	体験活動をする社会教育関係団体の支援、職場体験や小学生通学合宿事業など、様々な体験活動と交流学习機会の充実を図り、子どもの生きる力を育みます。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 放課後子ども教室事業では、「西条土曜スクール」「田原土曜スクール」「江見土曜スクール」「太海土曜スクール」「曾呂わくわくサンデースクール」「天津小湊土曜スクール」が活動しています。 また、キャリア教育の一環として、市内の中学2年生全員を対象に、「職場体験学習」を実施し、将来の仕事について学習・体験する機会としています。 小学生通学合宿事業は、青少年研修センターで寝食を共にしながら学校に通うといった集団生活を体験することで、自立性や協調性を高め、家庭の大切さや保護者のありがたさを理解し、他の学校の友達との交流を深めることを目的として開催しています。 【成果と課題】 ◎放課後子ども教室を通して、地域の方が、積極的に子どもたちの為に協力してくださる体制が整ってきました。子どもたちも地域の方と関わる中で、自然と地域を愛する気持ちや体験活動に積極的に参加する姿勢が生まれてきています。 ◎学校と地域が連携し、子どもたちが職場体験活動やボランティア活動に充実して取り組めるよう推進しています。 ◎家庭を離れて自分たちで生活する通学合宿を通して、自立心や協調性を養うことにつながっています。 ◆放課後子ども教室事業を支える地域ボランティアの確保と、運営してくださるコーディネーターの方が実施計画を立てやすくするための情報提供や、調整を行っていかねばならないと思います。各土曜スクールの横の繋がりも進めていけたらと考えています。 ◆学校と事業所における職場体験学習の実施希望時期の調整と、受け入れが可能な事業所の確保について改善を図っていく予定です。 ◆通学合宿事業実施にあたっては、開催時期を市主催の行事や学校行事に配慮していく必要があります。また、健康面に関しては、学校教育活動に支障をきたさないように、睡眠時間の確保等、児童の健康管理に十分配慮していく必要があります。

事業等名	家庭教育の支援
概要	「家庭はすべての教育の出発点、保護者は子どもにとって最初の教育者」であることから、家庭教育を重点施策に位置づけ、家庭教育学級の開催、家庭教育指導員による家庭教育指導や相談事業の実施、また子育て学習会への支援を推進し、家庭の教育力の強化を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 家庭教育学級は、26年度中に公民館と幼稚園が連携を取り、市内全幼稚園10園でのべ16回開催されました。また、全地区を対象とした家庭教育講演会を実施し、参加者の反応は概ね好評でした。 家庭教育相談室は、毎週水・木・金曜日に天津小湊公民館内の相談室で委嘱された2名の家庭教育指導員が対応しています。様々な家庭教育の問題に関して、電話相談や面接相談等を受けています。26年度相談件数は、のべ98件でした。また、「母の和だより」を毎月発行し、各保育園幼稚園・小学校・中学校など関係者に配布しています。 子育て学習会は26年度中に4つの会で開催され、のべ46回でした。 【成果と課題】 ◎相談事業は少子化や福祉総合相談センターの複数開設など多様な相談窓口の増加から、家庭教育相談室の件数は鈍化傾向ではありますが、幅広い年代・職種から多岐にわたる内容の相談があることから、相談窓口の選択肢が多く容易に相談できる環境をこれからも維持することが重要であり、またその対応の質を高めていきます。 ◎幼稚園保護者と公民館が積極的に活動し、さらに社会教育指導員も相談に加わることで、体験型の親子交流活動や保護者の語り合い・交流活動が多く実施されました。また、保護者側の組織が事前調査を実施するなど参加型の活動がみられ、より充実した家庭教育学級となりました。 ◎家庭教育学級の取り組みを他の年代層に拡充するため、オーシャンズ若潮明社と共催して家庭教育講演会を開催しました。その際、子育てサークルや幼稚園・保育園・学校の協力を得て実施したことで、子育て世代や孫育て世代の参加者が多数あり、とても好評でした。 ◆家庭教育学級を全地区で継続的に開催するために、社会教育の専門職員が公民館長と連携を取り、家庭教育学級を開催する幼稚園の役員会に参加するなど、企画の段階から関わり、助言できる体制をさらに整えていく必要があります。 ◆江見地区と天津小湊地区の幼稚園には家庭教育に係る保護者組織がないが、江見地区は統合により保護者数も増えるので組織作りを進める必要があります。天津小湊地区も幼稚園を中心に実施しておりますが、他の地区のように組織的な開催を進める必要があります。 ◆年度途中に家庭教育指導員の交代や欠員が生じたことから、複雑多岐にわたる相談内容に対応できる指導員を確保し、円滑に相談事業が実施できるよう、体制を整える必要があります。

○青少年の健全育成

事業等名	啓発活動の促進
概要	青少年健全育成大会や青少年育成指導者研修会の開催、小・中学生による青少年健全育成に関する作文等の発表会や映画会の開催など、多様な団体との連携を強化し、青少年健全育成に関する啓発・広報活動の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 青少年問題に対する様々な取り組みや方策を探り、地域住民の意識を高め青少年健全育成の推進を図る目的として、毎年、青少年健全育成推進大会及び青少年育成指導者研修会を開催しています。青少年育成鴨川市民会議を中心とし、育成会・相談員・PTAなど各種団体の参加による研修会は、青少年健全育成に関する様々な課題に関する講話や啓発活動を行っています。 【成果と課題】 ◎青少年育成指導者研修会においては、「心を育む人材育成」と題して講演を実施し、「最初の基本は家庭であり、子どもにとっての一番最初の先生は母親である。子どもは親の真似をして社会のルールを学んでいる。」と、お話をしていただき、多くの参加者で大変好評でした。 ◆今後は、青少年育成指導者等を対象とするばかりでなく、土曜スクール等の保護者を対象にする啓発活動等を実施するなど、より多くの関係者を対象とした取り組みを検討する必要があります。

事業等名	青少年育成団体活動の活性化及び地域との連携強化
概要	青少年育成団体や学校・警察連絡協議会などの組織・団体、地域住民と連携しながら、非行防止パトロール等を実施、防犯、非行防止親子映画会を開催するなど、地域が一体となった青少年の健全育成に努めます。 また、青少年育成団体などの指導者の交流・連携を強化しながら、球技大会やウォークラリー、ジュニアリーダー講習会、小学生通学合宿、小学生などの土・日曜日の有効活用を図るための放課後子ども教室・土曜スクールなど、多彩な青少年活動の展開を促進します。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 ・青少年育成鴨川市民会議を中心に、学校や警察の連携により年数回の防犯パトロールを実施しています。また、青少年相談員の夏季パトロールや各地区でのボランティアのパトロールも実施しています。 ・青少年育成団体の指導者の交流や連携を図りながら、球技大会や各種大会を開催しています。 ・放課後子ども教室事業として、現在6地区（江見・太海・曾呂・西条・田原・天津小湊）で土曜スクールを実施し、学年の異なる友達と一緒に、学習やさまざまな体験活動を地域のボランティアの協力のもとに行っています。 ・市内の小学5・6年生を対象とした通学合宿を実施し、子どもたちの自立心・協調性を育んだり、学力の向上を図ったりする機会としています。 【成果と課題】 ◎防犯パトロールは、警察署と市民会議とが連携を密にして活動を実施しています。 ◎放課後子ども教室を通して、地域の方が、積極的に子どもたちの為に協力してくださる体制が整ってきました。子どもたちも地域の方と関わる中で、自然と地域を愛する気持ちや体験活動に積極的に参加する姿勢が生まれてきています。 ◎通学合宿では、家庭を離れて自分たちで生活することを通して、自立心や協調性を養ったり、地域学習を通して、自分たちの地域のよさを再確認したり、新しい発見の場となっています。 ◆今後も青少年育成鴨川市民会議を中心に警察及び各種団体との連携によりパトロールを継続していく必要があります。 ◆放課後子ども教室事業を支える地域ボランティアの確保と、運営してくださるコーディネーターの方が実施計画を立てやすくするための情報提供や調整を行っていかねばならないと思います。各土曜スクールの横の繋がりも進め、また、市内全小学校区での開校に向けてコーディネーターや地域のボランティアの確保を進める予定です。 ◆通学合宿では、学校行事等との日程調整を図り、参加児童の健康面あるいは学校への負担軽減について配慮が必要となります。また、今年度は参加者も多く6年生優先となったことから、今後も児童が参加しやすくするため調整を図っていく予定です。

○市民文化の振興

事業等名	大学等との連携による特色ある生涯学習プログラムの充実
概要	市内に立地する大学関連教育研究施設と連携し、講演会や実験教室などを行います。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 大学関連教育研究施設と連携した事業は、平成４年から城西国際大学の「公開講座」、平成９年からは早稲田大学による著名な教授による「講演会」や「展示会」、また、「おもしろ科学実験教室」は平成１０年から開催されております。 平成２６年度は、城西国際大学による「公開講座」において『現代の問題－経済観と自然観－』をテーマに全２回の講義を実施、また、早稲田大学交流事業の「講演会」では、「経済社会の転換とものの見方・考え方－地域社会のあり方」をテーマに、社会科学の観点から地域の経済活性化について講演をいただきました。さらに、夏休みの一大イベントとなった「おもしろ科学実験教室」では、募集定員１９０名を大きく上回る３０２名の応募がありました。 また、東洋大学交流事業「講演会」では「漢字のかお(顔)」をテーマに、現在私たちが使用している漢字について、その発祥から現在に至るまでの流れをわかりやすく説明していただきました。 その他、市民が直接キャンパスを訪れ、大学が有する歴史・文化資産を見学する「東京大学キャンパスツアー」や「早稲田大学キャンパスツアー」、さらには自然体験学習を目的とした、東京大学千葉演習林での「野鳥の巣箱をかけよう！」や、千葉大学海洋バイオシステム研究センターでの「磯の生き物観察会」など多彩な事業を実施し、多くの市民が参加しています。 【成果と課題】 ◎大学の持つ知的資産や文化的資産を、本市をはじめ周辺地域に積極的に還元することにより、市民が大学を身近に感じ、大学への理解の促進につながっています。 ◎各大学が市民と交流を深めるとともに、市民文化の向上、生涯学習の充実に役立っています。 ◆講演会等において、より多くの市民が関心を持ち参加を促すような、市民のニーズに合わせた演題を選定する必要があります。 ◆公民館、図書館、郷土資料館といった社会教育施設と連携し、各施設の活性化にも繋がるような事業が求められます。 ◆各事業がマンネリ化しないよう注意しつつ、内容を見直しながら今後も継続して事業を実施する予定です。 ◆まだ交流事業を実施していない、亀田医療大学との連携が求められます。

事業等名	生涯学習施設の整備
概要	老朽化の状況に応じ、公民館などの計画的な施設の改修、修繕を行うとともに、視聴覚教材等の充実を図ります。
実施状況・ 成果と課題	【実施状況】 公民館を始めとする各生涯学習施設は、経年による老朽化により不具合箇所が増えているのが現状です。不具合箇所の確認をし、利用者の安全性を配慮しながら、予算の範囲内で修繕・改修を行ってきました。特に平成 26 年度は、中央公民館調理室の空調機の更新や、東条公民館 1 階講堂の床の貼り替え等をするとともに、利用者が安心して使用できるよう、東条公民館の耐震診断及び、中央公民館の耐震補強工事の実施設計を行いました。また、視聴覚機材については、新規にプロジェクターを購入しました。 【成果と課題】 ◎耐震診断や耐震補強工事の実施設計など、利用者の安全性を考慮した整備を行いました。 ◎各施設とも、利用者に不便をきたしている箇所については、緊急性を考慮し優先順位をつけて修理を進めてきました。 ◆今後も予算の範囲で、利用者の安全性を考慮しながら修繕していくことを考えています。 ◆視聴覚機材は、現在でも需要があるため、現存の教材・機材を有効に活用していきたいと考えます。

事業等名	読書・学習環境の充実
概要	多様な取り組みを推進するとともに、遠隔地利用者の利便性向上のため、公民館等社会教育施設との連携強化を図り、読書人口の増加に努めます。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 平成23年度から実施している、遠隔地域の住民サービスのため設置している公民館図書館分室が全4館となっています。蔵書冊数は全体で約8,500冊、新刊図書やベストセラー本などを購入したり、各公民館で実施される教室やサークルなどで利用できる図書を置くなど、地域に根付いた図書館分室の運営を実施しています。 また、市内の小学校からの見学や職場体験の受入を積極的に実施したり、出張おはなし会やブックトークを行うなど、各学校との連携を強化し図書館利用、又、行事への参加人数の増加を図っています。 【成果と課題】 ◎分室の利用については、登録者は全体で389名となり、昨年度より0.8%の増、貸出冊数も昨年度より0.6%の増という事から、利用の増加がみられました。また、「伝記」や「歴史の本」「公民館教室で利用できる本」などの要望があるなど、分室利用の定着もみられました。更に4月から全公民館にて返却本の受付を実施した事から、返却日を気にせず気軽に貸出を受けられるとの声もあり、遠隔地域の住民に大変好評です。 ●今後図書館分室については、地域の特性を生かした運営を図ると共に、各学校や土曜スクールとの連携を強化し、本館で行う行事への参加についてはもちろん、出張おはなし会等も積極的なPRをするなど、図書館利用の増加に努める必要があります。

事業等名	図書資料の充実
概要	中高生向け図書や郷土資料をはじめとした、各分野の図書資料の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 近年利用率の低い中高生への図書館サービスの提供や読書力の向上を目指し、平成25年10月から中学校への配本事業を実施しました。各クラスへ40タイトルの図書を配本し、図書の管理は学級担任と図書委員で行っています。市立図書館が推薦する図書の購入をし、学期ごとに図書の入れ替えをして配本し、読書の質の向上を目指しています。郷土資料については入手不可能な資料の複写製本や分類の見直しをするなどして、資料の充実や整備に努めています。 【成果と課題】 ◎配本図書の計画的な購入を図るとともに、館内の中高生向け図書の充実に努めた結果、約2,700冊から4,200冊と大幅に蔵書が増え利用されるようになりました。また、ボランティアを活用し図書の補修をしたり、ベストセラー本などの購入や古くなった資料の除籍をするなど、図書資料の収集・整備に努めた結果、利用の効率化が図れました。 ◆今後更に中学校との連携を密にし、中学生への朝読書用図書配本事業の充実を図るとともに、館内の学習資料の充実や快適な環境整備に努め、利用の定着を図っていきます。また、郷土資料の充実に努め、地域に根ざした図書館運営を目指していきます。

事業等名	地域文化クラブ活動の促進
概要	市民が主体的に様々な地域文化クラブを結成し、充実したクラブライフを実現できるよう、支援の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 各文化団体の活動の成果を発表する機会として、毎年秋に鴨川市文化祭と市民音楽祭を開催しています。 【成果と課題】 ◎文化協会の書道部門では、文化団体の書道作品だけでなく、市内小学校及び市内高校生の作品も展示、また、写真や短歌部門でも、市内の高校生の作品を展示しており、作品数が増えています。子どもたちの作品を展示することで、家族連れや高校生の見学者が定着しました。 ◎市民音楽祭では、本市と交流事業を行っている早稲田大学から、創部100年余りの歴史を誇るマンドリン楽部を招き、特別演奏が披露されました。 ◎市民が芸術文化に触れる機会を提供するために、市民有志との協力により、芸術鑑賞ツアーを2回開催しました。 ◆文化協会は、会員の高齢化により、会員数が減少しているので、各部門で個々の活動を広報に掲載してPRし、会員加入の呼びかけや積極的な周知が必要です。 ◆市民音楽祭は、年度により入場者数に増減がありますので、来場者に楽しんでもらえるよう、新しい試みをしていく努力が必要です。

○歴史・文化の保存と活用

事業等名	歴史・文化の発掘と保存・展示
概要	未だに明らかにされていない地域の歴史や文化の調査・保存に努めるとともに、郷土資料館や文化財センターでの展示、市史の編さんに努めます。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 市内にはまだまだ明らかにされていない歴史や文化が残っている状況の中で、寺社の立入調査、古文書の解読などを所有者や地元住民の理解と協力を得ながら実施しています。その成果を「伊八」や「嶺岡牧」などの観光・文化資源、企画展・ミニ収蔵展などの展示、地域ごとの歴史を記したあゆみの発刊事業に活用するなど、より多くの市民に鴨川地域の歴史や文化の重要性を理解してもらい、さらなる調査・保存に向けての理解や情報提供などに努めています。 【成果と課題】 ◎企画展として「安房の彫工・後藤義光 鴨川での足跡」展を開催し、本市内に残る義光の貴重な作品を展示するとともに、義光と親交の深かった高僧金剛宥性の事蹟を紹介しました。本市平塚で生まれた金剛宥性についてはこれまでほとんど知られていませんでしたが、この展覧会を機会に、市内外での認知度と関心が確実に高まりました。また、新たな入館者層の獲得を目指し、鴨川を舞台としたアニメ「輪廻のラグランジェ」展を開催し、市外、特に県外から多くの入館者がありました。文化財センターでは、古墳時代をテーマに「よみがえる古墳文化」展を開催し、県南地域の考古資料を紹介しました。 ◎郷土資料館や市史編さん委員会が管理・収蔵する資料を有効に活用する意味も含めて、「天津の鳥居曳き」展などミニ収蔵展を開催し、市内で埋もれていた歴史の再発見を進め、地域の文化・行事の紹介にも努めています。 ◎本市所蔵の貴重な資料を市民に紹介するために、市民ギャラリーを会場に「江戸から明治の木版画展」を開催しました。 ◎あゆみシリーズの『吉尾のあゆみ』の発刊のための製作を進めました。また、市内だけではなく市外からも多くの情報と貴重な史料の提供があり、資料館等の調査・保存活動の浸透と、歴史や文化に対する意識の向上が見られます。 ◆市内には、埋もれている歴史資料がまだまだあると考えられ、近年、市民からの情報提供や、調査依頼の件数が増加しつつあります。地域の関係者や所有者との信頼関係を築くことを念頭において調査を進めることが課題となっています。さらにその調査結果をどのような形で市民に還元していくかが重要な課題となります。

事業等名	歴史・文化の学習と活用
概要	伝統文化や文化遺産などの学習・体験機会の充実を図るとともに、郷土を愛する心の醸成や市民文化の向上のため、今後のまちづくりや観光・交流などに積極的な活用を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 郷土資料館、市民ギャラリーでは、様々な体験講座を実施し、また、公民館、学校などでは職員が講師となって、歴史・文化の普及に努めています。さらには、観光・商工関連団体との連絡を密にし、町づくりや観光における歴史・文化の情報提供を行っています。 【成果と課題】 ◎一般社団法人波の伊八鴨川まちづくり塾と協力しながら、文化遺産を活かした地域活性化の事業を実施しました。 ◎千葉県無形民俗文化財連絡協議会主催「房総の郷土芸能2014」が鴨川市市民会館で開催され、地元開催市として実行委員会の事務局を務め、本市及び安房地域の伝統行事の周知に努めました。 ◎小学校、公民館などへ講師を40回以上派遣し、延べ1000人以上の方が講義を受けています。 ◎あゆみシリーズを基本とした解説講座を開催し、鴨川市内の歴史の理解・再認識に努めました。 ◆今後はさらに、幅広い内容に関する要望が寄せられる可能性もあるので、そのような要望に応えるために、職員の知識を深め、経験を広げることが求められます。また、豊富な人材の活用と育成にも努めることが必要となります。